

アートは非日常 でも日常の延長にあるもの



PROFILE

さいたま国際芸術祭 2023
ディレクター
現代アートチーム

目[mé]

荒神さん 南川さん 増井さん
(中央左) (左) (右)

アーティストの荒神さん、ディレクターの南川さん、構想を形にするインストラクターの増井さんの3人を中心とする現代アートチーム。手法やジャンルにこだわらず、展示空間や観客を含めた状況、導線を重視する。

PROFILE

さいたま国際芸術祭 2023
参加アーティスト

近藤良平さん(中央右)

振付家・ダンサー。ダンスカンパニー「コンドルズ」を主宰。テレビ番組の振り付けを手掛けるなど、親しみやすい人柄とダンスで幅広い層の支持を集める。2022年、彩の国さいたま芸術劇場(中央区上峰)の芸術監督に就任。

今年3年に一度のさいたま国際芸術祭(以下、芸術祭)の開催年です。「わたしたち」をテーマに、10〜12月に市内各所でさまざまな作品を展開します。ディレクターとして全体を統括するのが、現代アートチーム目「mé」。振付家・ダンサーで芸術祭に参加する近藤良平さんとともに、見どころや意気込みを語り合います。

アートの魅力は寛容さ

——アートと言われると、とっつきにくい、どう見てもいいのかわからないと感じる方も多いと思います。皆さんはアートをどういうものだと考えますか。

近藤 僕の場合は普段、あまりアートという言葉を使っていない。身体を使ってこんな動きをしたらどうなるんだろうと考えて振り付けや演出をし、結果的にそれがアートだと言われています。

人が朝起きて夜寝るまでに、ほんのわずかな非日常を過ごす時間があるとしたら、それはアートと重なり得る。映画を観に行く、料理教室に行く、ヨガをするとか何でもいいんだけど、そういう非日常の時間は、年齢性別、立場や住んでいる場所の違いを超えて一緒に共感できる。アートは日常にほっとする時間を与えるものだし、発見ももたらします。

荒神 アートの役割は、許すこと、寛容に世界を捉えることかな。社会の常識やルールって、特に小学生の頃は大人から色々学ばないですか。そんな感性が育つ時期に、ルールにとら

アートは非日常でも日常の延長にあるもの



われずに世界を見ると、ふと心が躍る瞬間もある。

ふっと吹いたら消えてしまいそうな感性を許す寛容な視線を、私たち大人が手放さず持っていたい。芸術祭は、そういう気持ちで作っています。

変化し続ける2か月間

——芸術祭の見どころを教えてください。

南川 僕たちのディレクションするメイン会場・旧市民会館おみやげでは、音楽ライブやパフォーマンス・アーツ（身体を使って表現される芸術）、映画上映など毎日のようにさまざまな作品が発表されます。他にも市内各所で数えきれないくらいの



プロジェクトが展開され、常に動き続ける芸術祭になります。

明日来たら違う芸術祭なんじゃないかと思うくらい、どんどん変わっていく。ものすごくたくさん営みが芸術祭のなかで起こっていくので、ぜひその場に遭遇してほしいです。

——目「mé」の皆さんと近藤さんが芸術祭で演出する「SCAPER（スケーパー）」とは何ですか。

南川 スケーパーは造語で、景色を意味する「s c a p e（スケープ）」に接尾辞「- e e」を付けて、「景色の人」とか「景色のもの」という意味を持たせています。これをさまざまな場所ですべて展開しようとしています。たとえば、絵に描いたような



画家とか。ひげを蓄えてベレー帽にパイプをくわえて絵を描いている画家って、あまりいないかもしれない。絵を描いている姿そのものが偶然なのか、それとも演出なのか見分けがつかなくなる。そういう人やものをスケーパーと呼んでいます。

近藤 現実と演出の境が分らない状況をスケーパーという言葉葉に集約するのはいい発見。初めて南川さんから聞いたとき、天才かなと思いました（笑）。僕らが見ている風景の中には、たとえば会社への道を急いで走っている人や、暑くて汗を拭いている一見普通の人がいます。それに振り付けをすることもできるわけで、現実を少しいじるというスケーパーの演出に

当事者として関わることができないのは、非常に面白いし、楽しみですね。



スケーパーイメージ
Photo: 目[mé]

身構えずに見て欲しい

——現代アートを楽しむコツはありますか。

荒神 アートを身構えて見ないこと。作品が持つ意味を正確に理解しなきゃと思う必要はありません。自分自身が生活のなかで得た経験や感じてきたこと、この作品はひょっとするとつながっているかもしれない。そんな風に自分と近いものとしてアートを見ると、楽しめるかもしれません。

——芸術祭をどう楽しんでほしいですか。

近藤 あまり気負わずに、会場に訪れてほしいですね。僕自身、「アートを見に行くんだぞ」と



という気持ちで見に行くことはほほえみです。知らない海岸に行って、転がっている石ころを見るのと、会場に訪れ、現代アートを見るのはそんなに変わらない。人間、穴があったらぞいちゃうし、キラキラしていたり、何か大きくて立派なものがあったりするって目がい。気に入ったものがあれば、その前に長くいればいい。作品に付いているタイトルを見て、「よく分かんないな」と首をひねる。そういう感じがいいんじゃないですか（笑）

荒神 公園に遊びに行くくらいの気持ちで見に来てほしい。会場ではさまざまなことが目まぐるしく起きているので、ぜひ体感してください。

さいたま国際芸術祭の見どころ

市民サポーターの活動に注目!

さいたま国際芸術祭市民サポーターは、2016年の第1回開催から継続的に活動しています。芸術祭を契機に出会った多様な人たちが、月例で行う情報交換・交流の場のサポーターミーティングをはじめ、アーティストへの協力、市内文化芸術に関する調査などの自主的な活動をしています。



生活の中にアートを!というテーマを掲げ、地元への恩返しという思いから、定年退職後の2018年秋に市民サポーターへ参加し、活動してきました。参加アーティストの作品制作に直接関わるなど、芸術祭と市民の距離が近いので、多くの方に参加して欲しいという思いで活動しています。

市民サポーター
野口 敬(のぐち たかし)さん



市民サポーター
募集中

アート作品の制作や会場運営などの補助に参加できます。詳しくは、ボランティアシティさいたまWEBをご覧ください。



市民が参加し、共につくりあげるプロジェクト

市内で長きにわたり創作活動を行っているアーティストたちが、市民とともに市内全域で展開します。各プロジェクトの詳細は、芸術祭公式WEBサイトをご覧ください。



さいたまアーツ
センタープロ
ジェクト2023*
(SACP2023*)

日常生活のなかで、誰でもアートに参加する習慣を生み出す



アーツさいたま・
きたまち

「盆栽」「漫画」「人形」「鉄道」をテーマにした施設をアートでつなぐプログラム



創発inさいたま

市内の画廊や美術家が一堂に会する
展覧会を行う

あらたな目でもう一度まちを「みる」

さいたまトリエンナーレ2016、さいたま国際芸術祭2020に続き、3回目の開催となる芸術祭。これまでの芸術祭から引き継がれたコンセプトである「共につくる、参加する」市民参加型の芸術祭を目指します。

テーマ

わたしたち / We

会期

10 / 7 (土) ▶ 12 / 10 (日)

問合せ

さいたま国際芸術祭
実行委員会事務局
☎ 767・5411



◀ 芸術祭公式
WEBサイト

チケット情報

メイン会場はチケットが必要です!

	前売 (10/6 まで販売)		当日	
	一般	さいたま市民	一般	さいたま市民
1DAY チケット	1,500 円	1,000 円	2,000 円	1,500 円
フリーパス	4,000 円	2,500 円	5,000 円	3,500 円

購入するには

お得な前売チケット

市内の文化施設およびコミュニティ施設
さいたま国際芸術祭公式WEBサイト

当日チケット

旧市民会館おみや
さいたま国際芸術祭公式WEBサイト

お急ぎ
ください!

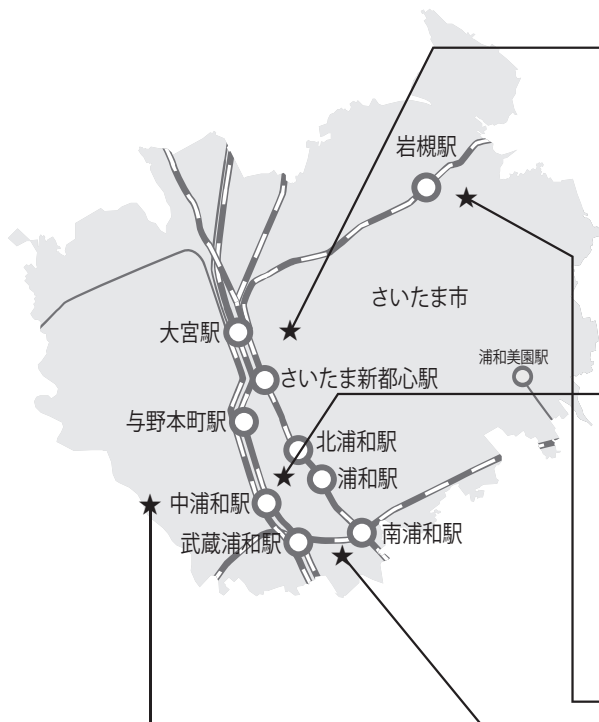


※詳しくは
芸術祭公式WEB
サイトをご確認
ください。

※高校生以下の方、障害者手帳をお持ちの方とその介助者(1人まで)は無料です。
※メイン会場以外の会場は別途入館料等が掛かる場合があります。 ※別途鑑賞料が掛かるプログラムがあります。

市内を巡って芸術に触れよう!

市内各所でイベントを開催します。各イベントの詳細、休館日等は芸術祭公式WEBサイトおよび各施設のホームページをご覧ください。



“動き続ける会場”

旧市民会館おおみや(大宮区下町)

目[mé]がディレクションを手掛けるメイン会場には、現代美術家、研究者、編集者、演出家や盆栽師など、さまざまなアーティストが参加し、多様な公演や展示作品を連日展開する。



メイン会場

埼玉県立近代美術館(浦和区常盤)

▶企画展「イン・ビトウィーン」
▶アーティスト・プロジェクト#2.07
「永井天陽」

10/14(土)～2024/1/28(日)

※展示により観覧料が掛かります。



連携プロジェクト会場



市民プロジェクト会場



連携プロジェクト会場



市民・連携プロジェクト会場

プラザウエスト、秋ヶ瀬公園 (桜区道場)

国際野外の表現展秋ヶ瀬2023

川をテーマにしたアート作品の展示

10/7(土)～17(火)

※市文化施設 味変企画は、大宮盆栽美術館(北区土呂町)、漫画会館(北区盆栽町)、鉄道博物館(大宮区大成町)でも実施します。なお、会場ごとに期間・内容が異なります。

さいたま市文化センター (南区根岸)

市文化センターで行われる自主事業を連携プロジェクトとして実施。

岩槻人形博物館(岩槻区本町)

市文化施設 味変企画

特殊照明装置とベルトコンベアーを雛人形とかけ合わせたアート作品の展示

10/7(土)～29(日)

今月の表紙

非日常のアートと
向き合う時間は
日常をもっと
豊かにしてくれる



公募プログラム イベント情報

テーマ「わたしたち」を踏まえ、アーティストや団体等が市内で展開する文化芸術活動を公募しました。

10/28(土)～11/26(日)	10:00～22:00	しまった写真展(仮) 会場:大宮門街WEST 1階(大宮駅東口)
10/29(日)、11/12(日)・26(日)	10:00～12:00	アートへのはじめのいっぽ!行ってみよう!さいたま国際芸術祭子ども向けアート鑑賞会 会場:旧市民会館おおみや(大宮区下町) 対象:小・中学生、高校生
11/17(金)・18(土)	14:00～14:45	In our homeland 会場:山丸公園(大宮区吉敷町) 料金:500円
12/6(水)	▶9:00～11:30 ▶18:30～21:00	さいたま市民らと創る映画「沼影市民プール」協働制作～公開プロジェクト 会場:浦和コミュニティセンター(浦和駅東口・コムナーレ10階)

ほかにも多数のイベントを開催予定です。詳しくは芸術祭公式WEBサイトをご覧ください。

市報さいたまの感想を「#市報さいたま」をつけてX(旧Twitter)、Instagramで投稿してください!
市ホームページやはがき(〒330-9588 浦和区常盤6-4-4 広報課)でもお待ちしております。